

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.111
2025.7

TOPICS

1

本学事務職員を「岡山大学研究開発マネジメント人材」に認定！ ～研究者の研究専念環境強化・教職員の高度化を推進～



河本部長

山本課長

本学は、研究・イノベーション共創管理統括部の河本雅紀部長と同部研究協力課の山本聖二課長を、新たに岡山大学研究開発マネジメント人材として認定しました。

本認定は、「岡山大学研究開発マネジメント人材認定に関する規程」に基づき、研究開発マネジメント業務を主体的かつ積極的に担うことのできる人材の養成と、教職員の高度化を目的として実施している制度です。本学における研究開発マネジメント人材は、研究内容に関する深い理解と洞察を有し、大学等の組織運営に関わる研究開発マネジメント全般に携わる高度専門人材と定義されており、本制度は、本学がJ-PEAKSを活用して行う大学改革の一環でもあります。今回の認定は、研究者と研究開発マネジメント人材が連携して研究開発に挑戦する環境の醸成に資する重要な取り組みであり、今後も認定者を増やしていく予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14363.html

TOPICS

2

「学都基金理事会」と「感謝の集い」を開催 ～学生代表が寄付者へ感謝を伝える～

本学は7月4日、岡山大学学都基金の運営全般について討議する「学都基金理事会」を開催しました。同会には、会長である那須保友学長をはじめ、岡山大学学都振興会会長の小長啓一氏、県内企業の代表者、本学の同窓生、常勤理事らが参加しました。

続いて行われた「感謝の集い」では、学都基金に多大なご支援をいただいた寄付者の皆さまをJテラスカフェでお迎えし、那須学長が感謝の楯を贈呈しました。さらに、支援を受けた学生代表(救命艇の船外機購入支援を受けたヨット部、アルトサックス購入を支援されたJAZZ研究会、海外派遣支援を受けたグローバル人材育成特別コースと文学部の学生、奨学金制度を活用したマレーシアからの留学生)が感謝の言葉を述べ、ひとりひとりが、自分たちの活動や成長に寄付がどのように生かされているかを報告しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14401.html

Pick up!

本学学生チームCopainが、国際労働機関(ILO)主催 「ILOユース・ कांग्रेस ピッチコンテスト」決勝で発表！



7月17日、本学医学部保健学科の学生チーム「Copain」が、大阪・関西万博会場内のEXPOホール「シャインハット」で開催された、「ILOユース・ कांग्रेस ピッチコンテスト」の決勝に出場しました。

Copainの提案タイトルは「学びで紡ぐ尊厳と健康。民間主導の新たなセーフティネットを世界に」。在日外国人労働者や障がいのある方、精神疾患のリスクを抱える方を主な対象とし、社会的孤立や就労困難の解消を目指すプロジェクトについて、ピッチを行いました。

審査員からは、「医療を学ぶ学生ならではの視点が活かされていて、労働現場における心身の健康を考えるうえでも重要な提案だった」「社会全体で人とのつながりが希薄になりつつある今、再び人と人との関係性を築くことで、働く人に力を与えるという点が印象的だった」といったコメントが寄せられ、応援に駆けつけた学生からは、「発表を見てエネルギーをもらった。自分ももっと積極的に活動したいと思った」などの声が上がりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14435.html

TOPICS

3

岡山大学国際同窓会インドネシア・スラウェシ支部を設立

7月9日、インドネシア・ハサヌディン大学で岡山大学国際同窓会の56番目の支部となるスラウェシ支部設立大会が開催され、支部長にハサヌディン大学歯学部長のイルファン・スギアント氏が就任しました。設立大会には那須学長および鈴木孝義副学長(国際・同窓会担当)が出席し、元留学生やODAPUSプログラムの参加経験者約30人がお祝いに駆け付けました。

来賓祝辞では、インドネシア元留学生協会(PERSADA)スラウェシ支部のルディ・ジャマルディン氏が支部設立を祝福し、40年前に本学に留学したシャリフディン氏が当時の思い出を振り返りました。

那須学長は、これまで学生・研究交流に尽力してきた関係者への感謝を表し、鈴木副学長は写真を交えて現在の本学の概要を紹介しました。今後も岡山大学は同窓生との交流を深め、優秀な留学生の獲得、学生の交換留学、教職員の交流目指して積極的に取り組んでいきます。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14411.html

TOPICS

4

大竹真紀子教授がNASAの「コラディーニアワード」を日本人初受賞！！

学術研究院先鋭研究領域(惑星物質研究所)の大竹真紀子教授(特任)が、NASAの太陽系探査研究バーチャル研究所が主催する「コラディーニアワード」を受賞しました。同賞は、太陽系探査分野において継続的に顕著な科学成果を挙げた研究者に贈られる国際的に権威のある賞で、大竹教授は日本人として初めての受賞となりました。

大竹教授は、JAXAの月探査機「かぐや」に搭載された観測機器の開発責任者として知られ、さらに、昨年日本初の月面着陸に成功した小型月着陸実証機「SLIM」など、数多くの月・惑星探査ミッションに携わっており、長年にわたり太陽系科学の発展に大きく寄与してきました。

受賞発表は、「NASA探査科学フォーラム2025」にて行われ、オンラインでのスピーチで大竹教授は、受賞への喜びとともに、これまで探査ミッションに関わった全ての関係者への感謝の言葉を述べました。さらに、今後インドと共同で行う予定の月極域探査機「LUPEX」ミッションへの期待、将来的には宇宙飛行士による月面での岩石採取を支援することが夢であると語りました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14439.html

PRESS
RELEASE

やる気はホルモン次第！？ニューロメジンUが鍵を握る新発見

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域の相澤清香准教授らの研究グループは、ホルモン「ニューロメジンU」がモチベーション(動機づけ)を調節する働きを持つことを明らかにしました。

研究チームは、哺乳類モデル動物であるラットにおいて遺伝子改変を行い、ニューロメジンUが欠損した個体を作製し、その行動とホルモン動態を解析しました。その結果、正常なラットと比べて、自発的な運動行動である、回し車を走る「輪まわし活動」が著しく減少していることが分かりました。

さらに、ニューロメジンU欠損ラットでは、男性ホルモン「テストステロン」の血中濃度に通常見られる正常な日内リズム(概日リズム)が消失しており、1日のピークが見られなくなっていました。

本研究により、ニューロメジンUがホルモンのリズムとモチベーション行動をつなぐ新たな内分泌因子であることが世界で初めて示されました。この発見は、意欲低下、ホルモン異常、そして概日リズム(体内時計)の乱れに関連する様々な疾患の理解や、新たな治療ターゲットの開発につながることを期待されます。

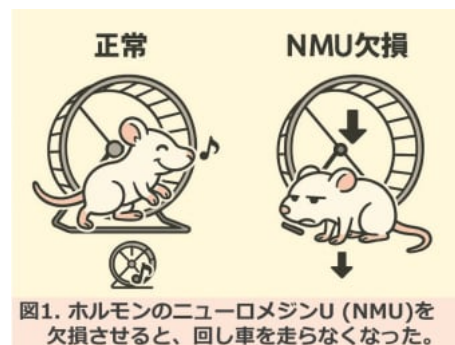


図1. ホルモンのニューロメジンU (NMU)を欠損させると、回し車を走らなくなった。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1406.html